

1940～44年、ナチ・ドイツ軍占領下のフランスで
人びとはいかに生きたのか。

フランス中央部に位置するクレルモン=フェラン
(Clermont-Ferrand) を舞台として、36人の
証言者へのインタビューから成る、対独協力と
対独抵抗の記憶と歴史に迫るドキュメンタリー。
1950年代以降、レジスタンス史観によって歪めら
れていたヴィシー時代の実像に迫ろうとした本作
は、その後の本格的なヴィシー・フランス研究の
幕開けを告げた記念碑的な作品である。

監督：マルセル・オフェルス
(フランス・スイス・西ドイツ/1969年/249分/
フランス語/日本語字幕付)

LE CHAGRIN ET LA PITIÉ

悲しみと哀れみ

— 占領下にあったとあるフランスの街の記録

第一部「崩壊」(121分)

日時：2026年7月11日(土)

13:00-16:00

場所：G30教室

第二部「選択」(127分)

日時：2026年7月12日(日)

13:00-16:00

場所：G30教室

*解説：南 祐三
南山大学国際教養学科准教授
フランス現代史

参加を希望される方は、下記のQRコードより
受付フォームにお入りいただき、事前申込ください。
※授業振替の学生は、申込の必要はありません。
【申込締切】7月10日(金)正午

